

お 知 ら せ

～森林育成事業（間伐関係）で新たに過密化林分の取り扱いが追加されました～

これまで、森林育成事業の間伐における対象林齢はⅢ～Ⅸ齢級でしたが、過密化した森林の整備を促進するため、対象齢級の取り扱いが変更となったもので、林分密度が地域の標準的な施業における林分密度の概ね5割上回る場合については制限がなくなりました。

取り扱いにあたっては、従来の森林育成事業と同様となりますが、林分密度については事業実施前に過密化した森林であるか調査する必要があります。

なお、林分密度の考え方については以下のとおりです。

スギ3,000本/ha植栽の場合

区分	間伐時点の林齢と本数									
	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90
見込み林齢(年)	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90
残存立木本数(本)	670	550	550	550	470	390	360	330	300	270
5割を上回る本数	1,005	825	825	825	705	585	540	495	450	405

御不明な点及び詳細な取り扱い等については、大河原地方振興事務所まで御連絡願います。

(担当：佐藤)

特 集

「低コスト造林植栽試験(造林技術展示林)の実施」

木材価格低迷による森林所有者の再造林意欲の低下が、造林面積の減少に繋がる現状を打開するため、造林コストの低減と新しい造林技術の実証普及が不可欠となっています。

このような中、県農林種苗農業協同組合から低コスト造林植栽試験と展示林設定に対する協力要請があり、大河原地方振興事務所では林業普及指導事業の一環として、昨年から同組合と協働で試験地を設定し、調査を行っています。

試験の箇所は蔵王・柴田・七ヶ宿町の3箇所。植栽系統は、2年生苗、3年生苗、コンテナ苗、低花粉苗(クローン)の4系統で、植栽本数は20～30本/系統ですが、この低コスト造林技術の普及には、コンテナ苗や2年生大苗が、従来の苗木生産技術で産出される3年生苗より有利であること、この実証が必要になります。



コンテナ苗

そこで、今年は苗木調査(苗高・根本径)、作業時間調査(植栽・下刈)等を調査し、それぞれ分析を行いました。

その結果、苗高は、2年生苗とコンテナ苗が3年生苗を上回り、コンテナ苗は他の苗に比べ成長率が著しいことが判りました。

今後は、下草等の状況により、何年目に下刈を終えられるのか、継続調査を行うとともに、植栽作業時間の短縮についてはコンテナ苗の優位性が認められたものの、下刈の作業時間についてはさらにデータの蓄積が必要となります。

次年度以降は、この大河原管内の3箇所の試験地の他に4箇所の県事務所管内で同様の実証試験が行われる予定です。

苗木生産～造林までの初期の育林技術にあたる低コスト造林技術の実証・検証はまだ始まったばかりです。21世紀の新しい森づくりのためには、低コスト造林を含め、除間伐等の保育や、伐木・造材技術までのトータルな新しい森林施業技術の検証・確立が必要です。

今後も引き続き、このような新技術の実証普及に、大河原地方振興事務所では、積極的に取り組むこととしています。

(担当：眞田)



コンテナ苗の植栽